

## 第79回横須賀市環境審議会 議事録

### 1 日 時

令和5年12月7日(木) 14時00分から16時30分まで

### 2 場 所

横須賀市役所消防局庁舎4階 災害対策本部室(We b併用)

### 3 出席者

#### (1) 環境審議会委員(15名)

奥委員(委員長)、飯島委員、**今井委員、小原委員、寛委員**、川久保委員、川名委員、**木本委員、工藤委員、小菅委員、高梨委員**、名執委員、林委員、松本委員、松行委員  
※太字は会場での参加委員、それ以外はリモートでの参加委員

#### (2) 事務局(環境政策課)職員(4名)

佐藤課長、大野田主査、池田、中村

#### (3) 関係職員(10名)

[環 境 部] 山口部長

環境保全課: 秋澤課長

[経 営 企 画 部] 都市戦略課: 吉田課長、林主査、天野担当

[建 設 部] 自然環境・河川課: 引本課長、内田主査、森塚担当

公園管理課: 三浦課長、辰馬担当課長

### 4 傍聴者

2名

### 5 開 会

(1) 令和5年10月1日付で就任した委員(任期満了に伴う委員改選)への辞令書交付

(2) 副市長挨拶

(3) 委員及び関係職員・事務局職員の紹介

(4) 定足数について

委員18名中、15名の出席により定足数を満たしているため会議が成立することを報告

(5) 会議資料の確認

(6) 会議の進め方についての説明(会場参加委員及びリモート参加委員)

### 6 議 事

〔議題1〕委員長の選出、委員長職務代理者の指名について

〔議題2〕横須賀市環境審議会傍聴実施要領(案)及び議事録の取り扱い(案)について

〔議題3〕令和4年度年次報告書(素案)について

①横須賀市環境基本計画2030

②ゼロカーボンシティよこすか2050アクションプラン

③横須賀市みどりの基本計画

### 【議題1】委員長の選出、委員長職務代理者の指名について

事務局から、委員改選後、初めての委員会となるため、委員長については横須賀市環境審議会規則第3条第1項の規定により委員長は委員の互選となることを説明し、委員長への立候補及び推薦について発言を求めたところ、今井委員から奥委員を推薦する旨の発言があり、全会一致で了承され、奥委員が委員長に選出された。

また、委員長職務代理者については、同規則第3条第3項の規定により奥委員長から松本委員が指名された。

### 【議題2】横須賀市環境審議会傍聴実施要領（案）及び議事録の取り扱い（案）について

事務局から、横須賀市環境審議会傍聴実施要領（案）及び議事録の取り扱い（案）について説明し、いずれも事務局（案）のとおり、了承された。

### 【議題3】令和4年度年次報告書（素案）について

#### ①横須賀市環境基本計画 2030

#### ②ゼロカーボンシティよこすか 2050 アクションプラン

#### ③横須賀市みどりの基本計画

事務局から、上記①～③の令和4年度年次報告書（素案）について一括で説明し、質疑応答を行った。質疑応答の内容については以下のとおり。

#### ■委員長

ただ今、事務局から3つの計画の年次報告書（素案）についての説明があった。一括してご意見・ご質問等をいただきたいと思うがいかがか。

なお、ご意見等の際にはどの計画の何ページかわかるようご発言いただきたい。

#### ■今井委員

1点目、資料6-1の16ページの表「市域における部門別温室効果ガス排出量」について、ここでは2021年度までしかないが、14ページは2022年度となっている。なぜそう言うかという、ゼロカーボンシティよこすか 2050 アクションプランの計画書の30ページ「温室効果ガス排出量の将来推計」と連動しており、2023年から久里浜火力発電所が稼働するというので、比較をするためにも、できれば令和4年度の表をここに掲載していただきたい。

昨年来からいろいろな議論があり、今度のCOP28でもそうだが、石炭火力は非常に世界的に問題になっている。そのような中で、二酸化炭素排出量がやはりエネルギー転換の部分で大きな割合を占めている。もちろん横須賀に課せられた割合は全量ではないにしても、先ほどから令和4年度の報告書を聞いているとほぼ〇となっていて、努力して市域における排出目標はクリアしているとしているが、ここに2023年から久里浜火力が稼働する、そして途中からアンモニア混焼を行う、そのようなプロセスを見せていただきたい。

そうしないと、市だけで良いですと言っても、地球環境的な面で見ると横須賀市の中におけるCO2というものの、削減というものを市として認識しておかないといけない、市民にも知らせておかないといけない。相対質量として令和4年度と非常に大きな変化があるわけですから、そういう点で、2022年度の数値があればこの表に加えていただきたい。

2点目は、化学物質について法律的に詳しくはないが、ダイオキシン類などの水質等についてはクリアしているということで、だいぶダイオキシン類も規制されてきたなという印象がある。

しかし、昨年私も質問したが、ここ2年くらいのPFOS・PFOA問題に全然触れていない。ここには必要ないのかもしれないが、ただ、今、2023年7月17日の朝日新聞「横須賀米軍基地原因特定は困難」という記事が手元にあるが、確かに昨年私が質問した後、時間をおいて、横須賀市の方から「排水から検出はしなかった」と回答いただいた。

しかしその後、全国的に見ると、このPFOS・PFOAというのがかなり問題化して、環境省ももう1回やるということを行っている。1つ問題は、排水だけではなく、いわゆる地下水、それから周辺住民の血中濃度、こういうものが基準から遥かに大きく超えたという様々なデータが出てきている。

このことから、横須賀市でも今まではダイオキシンまでで良いということまでやってきたかもしれないが、PFOS・PFOAという有機フッ素化合物問題というのをフォローしていかないと、市としても責任と追求ができないと考えている。

3点目はブルーカーボンの問題について。私もブルーカーボン検討会に参加させていただいているが、クレジットを取っていくことになって非常に努力されているが、クレジットというのは藻場を再生した暁に結果としてクレジットが発行されるということである。今ある東京湾の藻場の評価やアマモの評価について、今のブルーカーボン検討会ではむしろ長井地区のカジメの再生だけを注目しているので、これは横須賀市にとっては損であると考えている。「よこすか海の市民会議」が深浦でアマモを再生しているし、漁業者がワカメやノリを養殖している。これはブルーカーボンの評価として大きな位置付けであるので、評価を市としてちゃんとしていただきたい。

再生するお金がなく、結果としてクレジットにはなるが、活動する立場としては活動に助成金や補助金をいただきたい。ブルーカーボンを以って排出量の相殺を狙うのであれば、そういうところに対し、行政として予算を伴った取り組みをしていただきたい。

## ■委員長

3点ご意見をいただいた。2021年度数値が直近で把握できる数字で14ページも同じだが、事務局いかがか。

## ■都市戦略課長

1点目と3点目について。

資料6-1についてのご指摘だが、資料7-1の3ページに同じ表が載っているのご確認いただきたい。1点目のご指摘は直近の令和4年度のデータを載せるべきということだが、(2)のとおり、市域における温室効果ガス排出量については統計などのデータを使って推計をしており、国のデータの発表がないと出せないため、現在把握できる直近のデータはさらに1年遅れの令和3年度のデータが最新となる。1ページおめくりいただいたところの事務事業編は自分たちで出している数値なので最新年度は令和4年度になっているという違いがあることをご承知おきいただきたい。これは過去の計画からずっと同様の記載方法としている。

その中で、エネルギー転換部門の記載については、4ページの部門別の下にエネルギー転換部門を含めた数値を表記している。委員のご意見については、この計画を作る際にも当時議論があったと認識している。COP28でもだいぶ議論されているようだが、我々としては、計画に入れるか入れないかという話があった際には、語弊があるかもしれないが、自治体が努力をしても効果が反映できないものについては除外してよいという国のマニュアルに基づき議論してきた。議論の結果、エネルギー転換部門は部門別の数値からは外すが、委員のご意見のとおり、横須賀市としては、火力

発電という大きな施設があるのは間違いないため、その部分は参考として数値を追いかけていく必要があり、それを踏まえてこのように掲載している。

JERAとしても2050年度までにCO2をゼロにするとホームページに書かれており、我々としても同じ方向を向いていると認識している。

3点目については、資料7-1の17ページと20ページ、藻場の保全活動対象面積を指標にもしながら取り組みを進めているところだが、ブルーカーボンは少しずつ企業からも注目を浴びている手段である。横須賀市は委員をはじめとして研究会や企業にもご協力いただきながら造成に取り組んでいるが、自然のものであるので、すぐには成果が出ない。また、国が正式にはインベントリにまだアマモなどの海草や海藻を挙げていないため吸収量としては算入できない状態。ただし、昨日の議会でも発表したが、相模湾側が砂漠化して藻がない状況で漁業者もお困りの中で、経済部と漁業者が協力し、わずかだが、2,400平米、市役所前公園半分ほどの藻場ができてきたという取組結果・成果も出てきたところであり、国も算入を検討しているところである。

委員のご意見としてはクレジットを取ることに注視しすぎではないかということだが、我々としてはそのようなことはなく、水産業の振興の点や脱炭素の点から藻場が必要だということでクレジットはその結果出てくるものだと、あくまで藻場をいかに造成していくかが大事であると認識しているので、様々な手法を検討し、この場でも議論していただきながら取り組んでいきたい。

#### ■委員長

PFOS・PFOAについてはいかがか。

#### ■環境保全課長

地下水や血中濃度に関する報道があり、市がフォローすべきではないかというご意見について、現在市では、米海軍基地から流出したということで東京湾7地点を測定している。米海軍基地以外に発生源がないため、河川や地下水の測定は考えていない。

血中濃度検査も多摩地域で実施しているのは承知している。水道水については上下水道局で分析し不検出と聞いている。また、井戸については市長答弁で飲用井戸が6か所あり、行政では分析しておらず井戸の所有者が自主管理するものと回答している。血中濃度についてのご意見は保健所と共有していきたい。

#### ■委員長

今井委員、いかがか。

#### ■今井委員

なかなか難しい問題だと思うが、今までの環境問題は市民も行政も努力してきた結果が出ているが、こうした新しい問題に機敏に対応しないと市民の安全安心や、国連事務総長は沸騰化だと危機感を示しているが世界的なスケールとローカルのスケールは違うもののCO2の排出について一人一人が心掛けないといけないう2030年1.5℃の目標、久里浜火力のアンモニア混焼でアンモニアを作成・運搬するのに本当にCO2が削減されるのか、それらを含めて、皆さんが努力して目標どおりに達成できているという報告をされたが、それがトータルとして追いつくか、今は漠然としているが、さらに努力が必要な事態に至るのではないかと懸念している。

ご存じのとおり、水産ではサンマが獲れない、サケが揚がらない、神奈川県ではワカメの種糸が昔は10月中旬に種を挿してワカメが養殖できたが今は12月と2か月間遅れていて、それだけ水温

が上がっているということ。目に見えないがひたひたと温暖化の状況が私たちの身近に迫っているということである。そこを受け止めないと、後から「しまった」となる。行政も大変な問題だと思うが、そこを感じないとあの時ああいうことをやっておけばという悔いが残るのではないか。ぜひ皆で努力していきたい。

#### ■委員長

温室効果ガスの数値については2021年度が直近の数値だと説明があったところだが、資料6-1の14ページの数値と資料7-1の3ページの数値が違う。資料7-1の3ページの1(2)の数値は二酸化炭素以外のその他ガスも含めた数値を記載しており、資料6-1の14ページの温室効果ガス排出量はその他ガスを含めない数値になっているが、なぜこちらは含まず二酸化炭素のみの数値なのか。そろえる必要があると思うが、ここについての説明を事務局にお願いしたい。

#### ■都市戦略課長

委員長のご指摘のとおりであるので、資料6-1と資料7-1のその他ガスが片方では含んでいて片方では含まれていないので、統一するよう修正したい。

#### ■委員長

目標値はその他ガスも含めての数値か。

#### ■都市戦略課長

そのとおりである。

#### ■委員長

資料6-1をその他ガス含む数値にさせていただく必要がある。目標値なども大丈夫か。

#### ■都市戦略課長

他の箇所も含め事務局の中で確認し、修正したい。

#### ■川久保委員

今井委員のご意見とも絡んでくるが、資料7-1の3ページについて、令和3年度が最新値のものとして令和4年度が最新値のものは推計方法の違いに起因しているというのは理解している。令和3年度の方はいわゆる統計データから按分して求めている方法で、一方で後者は積み上げ法でどの施策をどのくらいやったかというデータを使って排出量を算出していると思う。

質問の意図としては、積み上げ法と按分法をミックスさせることを今後も続けるのかということをお聞きしたい。なぜかという点、ゼロカーボンシティよこすか2050アクションプランの計画書の97ページ、これを見ると令和3年度の推計については都道府県のデータから按分して横須賀市はどれくらい出しているかを推計している。横須賀市の中で努力しても世帯数や従業者数で決まるので各事業者や皆さんの努力が反映されない方法で、これが市域のCO2排出量となっている。

一方で令和4年度の方は積み上げ法できちんとそれぞれ努力を見るという形になっている。計画書32ページのグラフについて、今、令和5年度の時点では問題ないが、なぜこの質問をするかというと、これが中期目標、長期目標と進んで、例えば2029年度に今までを振り返りましょうとなった時に、色の濃い棒グラフの部分は按分法で神奈川県全体から按分、上からの矢印の部分は積み

上げ法でとなるので、積み重ねていくと濃いグリーンと合致せずギャップがどんどん顕在化してくる恐れがある。そうなったときに、このミックスの方法を続けるのかお聞きしたい。今年度は問題ないが、長期的に誤差が大きくなってきて無視できなくなる懸念があることについて、何か対策をしているか教えていただきたい。

#### ■委員長

確認だが、積み上げ方式を採用しているのは資料7-1の5ページにある市役所の事務事業編で、市役所が1事業者として排出している量で、これはデータが入手できるので独自に算出している。

#### ■川久保委員

市域施策編はひたすらずっと按分法で推計していくということで良いか。

#### ■委員長

全国的にこの方法でやっているかと思うが、事務局いかがか。

#### ■都市戦略課長

委員長と川久保委員のやり取りのとおり、市域施策編の方は基本的に按分法で計算されていて、市役所事務事業編は目標も削減量も積み上げ法で計算している。

市域施策編の作り方は国のマニュアルに提示された方法に則っているのでは今はこのままで良いと考えている。

#### ■川久保委員

了解した。いま手元に資料がないが、市域施策編の主要アクションの削減量などが掲載されていなかったか。市域施策編の将来計画に渡って按分法と積み上げ法で齟齬が出ない計画になっていれば問題ないが、あるようであれば、今の段階から少しずつ考えておかないと、後半になればなるに従ってだんだん苦しくなるので確認させていただきたかったという趣旨である。

#### ■委員長

確かに、実際は排出量の算定にあたっては国の示しているガイドラインに則って按分法だが、何をやってどれだけ削減するのかというのは積み上げであり、そこで数字が合わなくなってくるのかギャップが出てくるかもしれないというのはそのとおりである。

ただ、これは横須賀市だけでなんとかできそうな問題ではないとは思いますが、いかがか。

#### ■川久保委員

おっしゃるとおりである。

よって、いわゆるハイブリッド法という形で両方をうまく融合させていくしかないとは思いますが、ハイブリッド法を使うとすると、早い段階で対策を打っておかないと、だんだん後半になって苦しくなって誤差が大きくなって、どう言い訳するのかというような形になってくるので、早い段階から検討すると良い。

#### ■委員長

今のご意見に対し、事務局はいかがか。

#### ■都市戦略課長

川久保委員のご指摘はご心配をいただいたということで、とてもありがたいご意見だと事務局としては考えている。確かにギャップが大きくなってくるとこの後も大変になってきたり、ずれの説明にも響いてくると思うので、国のマニュアルを見たり、環境省にも例えば確認するなど、どういった形ができるか分からないが、ご意見の趣旨は理解したので改めてどういったことができるかということを考えていきたい。

#### ■松本委員

今のことに関連して、川久保委員のご意見のとおり按分法でしかできないのだが、ただやはり横須賀市で努力したことが十分に反映されないというところは、以前からの課題である。

解決にはならないが、資料編の方でもいいので、推計した元の資料・数値を掲載していただくが良い。それぞれ県の数値をもとにしていて、そこからそれぞれの世帯数や按分に用いた数字など、その辺りの数値が基準年度と2020年や2021年でどう変わったか、それに基づいて計算してるかというのを、本編にはいらないと思うが資料編の方にも載せていただくと、どういう根拠とかどんな理由で変化してるかということが少なくともこの方法で言えば分かるので、お願いしたい。

#### ■委員長

今のご提案について、事務局はいかがか。

#### ■都市戦略課長

資料編の方に書いてあった方が分かりやすい。市民の方により分かりやすく理解していただくというコンセプトを目指しているので、川久保委員のご意見も含め、そういった部分で書けるものであれば書きたいと考えている。どのように書けるかも含めて、一度持ち帰らせていただきたい。

#### ■飯島委員

いつも体系的にまとめていただいていると思いながら拝読させていただいている。

資料6-1の40ページを叩き台としての意見だが、グリーンインフラという用語をいろいろなところに導入して具体的なこれからの展開についても計画が記載されていて、非常にありがたいが、市民等も理解を深めていくために、その概念が誤解されないようにということと、横須賀市として、どこにとりわけ重点を置いてるのかということが分かるような示し方になっていくと良い。

このページのままで良いが、資料8の12ページにも「新たな制度等の取組」というところでグリーンインフラと今後の予定などが記載されている。基本的に、グリーンインフラは地域課題解決というところをものすごく強く背景として含んでいて、何か個別の技術界のことを言っているわけではない。よって、金太郎飴のように緑地があるとういう機能があるという、そういう道筋ではなく、「横須賀市の地理や土地利用に鑑みた課題解決のために賢く緑地の機能を活用するというのをグリーンインフラと称する」という概念の共有があって、それで中身を語っていくのが良い。

そうすると、先ほどの資料8の方にも関連するが、1つはやはり急峻な地形があるということで、土砂災害対応や、あるいは河川の洪水、あるいは市街地の内水氾濫、そういったことが比較的横須賀市としては重点的に懸念されるから、こういった課題解決のために、緑地をうまく利活用する。しかし、活用するだけではなく、そこには樹林地の適正な維持管理がそのことに繋がるんだという、

いろいろな施策の横串の役割でもある。

それと、透水性舗装についてもグリーンインフラをキーワードに説明されているが、どちらかというと狭義のグリーンインフラが治水や雨水浸透でしばしば語られることがあるので、そういうことから透水性舗装をたまたまグリーンインフラと表現したのか、あるいは横須賀市の重点事項として記載されているのか、もう少し背景との接続が必要である。

しっかりとこちらにも書いていただいているように、基本は横須賀市も狭義のグリーンインフラではなく広義のグリーンインフラを目指すべきだと思うので、大きな意味でのヒートアイランドを含む環境改善、それから治水を含む防災減災、それとその緑地を利用する人の健康というのを案に入れていただいたのは非常に良かったと思う。

しかし、もう少しその概念という意味で、資料6-1の40ページ下部のイメージ図は、横須賀市事務局としてこれでもうぴったり表現しているんだと思っているのか、もう少しこのイラストを横須賀市らしく改善しようとしているのかをお聞きしたい。

#### ■委員長

環境基本計画の中にこのグリーンインフラがどのように記載されているのか、どういった役割を期待して位置づけられているのかという環境基本計画の計画書に関してのご指摘かと思うが、環境基本計画の計画書の73ページに同じ図がそのまま使われており、この図をただ年次報告書にも持ってきただけということである。

また、ここにグリーンインフラ導入・活用プロジェクトとして地形的な特徴や懸念される点の記述があるという前提で、年次報告書の40ページの記述がある。

#### ■飯島委員

これを受けてということになるかと思うが、資料8の12ページ「新たな制度等の取組」の今後の予定というところで、既にグリーンインフラの情報収集のため講演会を聞いたり情報を集めているということと、透水性舗装のこと、それから流域治水の観点、これは非常に大事なことを書いていただいていると思うが、いま当面横須賀市が上手くグリーンインフラを活用していこうという方向性、今後の予定というのはこのぐらいのところだという認識と受け止めてよろしいか。

#### ■委員長

事務局いかがか。

#### ■自然環境・河川課長

資料8の12ページ、施策番号4の「今後の予定」というところでの透水性舗装や流域治水の観点からという部分について、グリーンインフラに関する横須賀市の取り組みはこういうものを考えているのかというようなご指摘だったと受け止めさせていただいた。

みどりの基本計画の中で、今、我々の方で取り組みとして今後対応していくものとしては、こういうものを今後積極的に取り組んでいきたいと考えてるところでこのような記載をさせていただいている。

今の時点で個別にどういうものをどれだけの量にという話はまだできないが、今後の取り組みとしては、今まで取り組んでいないこういったものに対してもある程度積極的に取り組むことを目指していきたい、という形で表現している。

#### ■委員長



飯島委員、いかがか。

#### ■飯島委員

本当に悩ましいところがあり、他の施策で取り組まれていることがまさにグリーンインフラのプロセスだということも実はあるところもある。グリーンインフラとせつかく表現されてるところに少し横須賀らしい取り組みのパーツが入ってくるとなお良い。

#### ■委員長

非常に貴重なご意見である。

もう少しグリーンインフラを具体化していく中で、実は他の取り組みとの関連性もしくは他の取り組み自体がグリーンインフラの要素を持つものであったりということもあるので、その辺りの横断的な、施策間の連携といったところをもう少しまく見せるなり掘り下げて具体化するなりというところを工夫していただきたいというご指摘である。

他にいかがか。

#### ■小原委員

資料6-1の14ページ、基本目標についての事務局からの説明についての質問と確認。市が削減すべきCO2排出量の目標値や削減すべき数値の中に久里浜火力発電所の排出する排出量というのは加算しないという理解でよろしいか。

#### ■都市戦略課長

そのとおりである。

#### ■小原委員

否定も肯定もしないが、それならば、それをこの基本目標2に明記していただきたい。市民は多分入っていると思っていると思うが、入っていないのにこの数値だということになると、達成できてるんだということを誤解してしまう場合もあるので、これを加えていないんですということを書いていただいた方が誠実だと思うがいかがか。

#### ■都市戦略課長

先ほどの議論でもそのようなところがあつたため、ご意見のとおり、理由を付して分かりやすい記載で追記できるよう考えたい。

#### ■高梨委員

資料6-1の指標の評価を3段階で評価しており、それが5ページの先ほどからいろいろ議論になっている「脱炭素型のまちづくり」のこの数字が14ページともまた違うが、この評価というのが〇になっているという意味が今ひとつ理解できない。いろいろな施策を講じているけれども、本当にこれは削減が進んでるのかどうかという客観的な判断をどのようにしているのかお伺いしたいのが1点。

それと、先ほど飯島委員が発言したグリーンインフラの件もそうだが、今、複雑多様化する環境問題に対し、専門的にも対応していかなければならないし、包括的にも対応していかなければならないということで、新たな理念がどんどん出てきたり、概念も新しいものが出てきて、それを実際

に市の行政として展開できるだけの技術的基盤がどこにあるかというところを見た場合、非常にそこにギャップが今出てきているのではないかと感じる。

いろいろな新しい概念に対して、市の方としては、ぜひ技術的な研鑽を積んでいただき、それぞれの事業・取り組みの中で、ぜひ前向きに展開していただくようお願いしたい。

#### ■委員長

1点目について、今回△はないようだが、◎○△の客観的な基準について、事務局いかがか。

#### ■都市戦略課長

まさに皆さんが思うところかと思うが、実際ここは、例えば何%以上さがってれば◎にするなど、そういった基準なしで定性的に今つけている状態である。高梨委員が疑問に思われたところで、他の方も多分そういうふうに思われる方もいるかと思うが、定量的な計算のもとでこの評価をするというのが馴染むものもあれば、馴染まないものもあるなど、少し考えなければいけない。

環境部とも、どういう形がいいのかを考えさせていただきたい。

#### ■高梨委員

非常にいろいろなことを講じていかなくちゃいけないという中で、一番難しいのがトレードオフの関係にある施策である。片方の方では進んでいるが、それが環境の他の面で負の影響を与えているというようなことがあり、それをどうやってトータルとして評価していくかということが非常に難しい。

施策としてどの程度を進んでるかというのはいくらでも評価できるが、経済的な仕組みや国の政策だとかも含めて達成しなければいけないようなものなので、市として非常に苦心をしなければいけないというそういう状況に置かれている。

それゆえに、市としてちゃんとした判断の基準を持っていた方が良い。市民の方々に対してわかりやすく説明していく、それで行動変容を求めていく以外の方策がないような感じがしており、そういった意味で申し上げたので、客観的に評価しろとかそういった意味ではないので、よろしくお願ひしたい。

#### ■委員長

非常に重要なご指摘かと思う。資料6-1の14ページと15ページには評価・考察の文章がまだ入っていないので次回お示しいただけるところだと思うが、現段階ではなかなか判断基準を定量的に示すというのは難しいという状況もあるので、いずれにしてもなぜこの○という評価になったのか、なぜこのように判断したのかということについては、ちゃんと文章で理由をご説明いただくということが肝要なので、次回、この評価・考察の文章をしっかりと確認させていただきたい。

他にいかがか。

#### ■寛委員

全体的な印象だが、ロードマップというスケジュールというか、民間の企業だとタスクに対してスケジュールは週や月でやっているの、この年というざっくりしたものはちょっとしっくりいかない。先ほどの評価の話とも関係して、どこら辺でどこまで行って最後にこうなったというので、1年間かけて◎になりましたということだと思うが、私どもが先ほど市長からいただいたのは2年任期だということで、1年経ってこうだと言ったら1回しか見れないということで、なんか変だな

と感じている。ただ、これを言うと、半期にするのか月1にするのかにしろ、資料がものすごく横に広がってしまうので、これは参考意見として聞いていただきたい。

#### ■委員長

事務局はいかがか。チェック、PDCAを回すのは1年かけるのは致し方ない。

#### ■事務局

行政の特徴として、年間でこれだけやりましたということを、次の年以降に審議していただくところが体制として染みついてしまっている。可能な範囲で、いただいたご意見、例えばピンポイントで特徴的なことがあったところはデータや資料編としてご用意できるかと思うので、お示しできる場所はお示しして、評価していただきたい。

#### ■委員長

算委員、よろしいか。

#### ■算委員

承知した。

#### ■委員長

他にいかがか。

#### ■工藤委員

細かいことだが、資料6-1の27ページ、施策としてはごみの減量化・資源化の促進のところ、市民・事業者の活動支援というところに「クリーンよこすか市民の会への支援」というのがあるが、クリーンよこすか市民の会というのは地域レベルで活動していて、もう少し細かく言うと連合町内会レベルでそれぞれ活動をしている非常に大きな組織として組織化されて動いているので、どちらかというとそのごみ資源化の推進というような意味合いで、この人たちが連合町内会レベルで地域レベルで活動しているというような書き方をしてあげた方が、市民の会の皆さんにとってもモチベーションが上がるのかなと感じている。

また、36・37ページあたりになると、「環境に優しい社会の担い手を育むまちを目指します」ということで様々な環境活動があるが、こうした小学校・中学校等の環境学習というのは啓蒙になるので、ぜひこの辺りの啓蒙とクリーンよこすか市民の会の実務・実行部隊がやっているようなことの啓蒙もきちんと小・中学校の中でしてあげることが、横須賀のごみの減量化に繋がっていくというような形で考えられるので検討いただきたい。

#### ■委員長

今のご意見を踏まえ、文章を事務局で検討いただけるか。

#### ■事務局

ご意見のとおり、クリーンよこすか市民の会は私どもも毎日のように大変お世話になっている団体であり、「活動支援」というだけではもったいない表現であり、実質的な活動内容を見ても、それだけじゃないというところがあるので、こちらは検討させていただいて、違う部分での記載であ

ったり、ご意見のありました教育の面でのところでの活用というか、紹介というか、そういったところも配慮していきたい。

#### ■委員長

他にいかがか。

まだまだご意見等あるかもしれないが、16時10分を回ってしまったので、お気づきの点等があれば、のちほど詳細な説明があると思うが事務局の方に後日お寄せいただき、それをこの素案をさらにブラッシュアップしていくためのご意見としてそちらも踏まえた上で、事務局には作業をお願いしたい。

本日の議題は以上とする。

## 7 その他

#### ■事務局

以下の4点について事務局から連絡

(1) 後日意見について

後日、意見があった場合には、12月14日（木）までに事務局へ連絡をいただきたい。

(2) 次回の環境審議会の開催日程について

今回は令和6年2月頃に開催を予定している。

議題は本日いただいたご意見等を踏まえ修正した年次報告書の案を審議いただく予定。

(3) リモート出席者（及び欠席者）の辞令書の郵送について

(4) 市役所北口駐車場利用の駐車券の処理について

## 8 閉会

#### ■委員長

追加でご意見等あれば12月14日木曜日までに事務局の方にお寄せいただきたい。

それでは、以上をもって第79回横須賀市環境審議会を終了する。

以 上